

# 海風日記

さまざまな記憶を包含した貴重な収蔵品が日本郵船歴史博物館にあります。海風が日記をめくるように積み重ねた歴史を紹介します

## “天洋丸タイムベル”



「天洋丸」要目

全長：167.64m、総トン数：13,402トン、速力：19.07ノット  
建造：三菱合資会社三菱造船所(現、三菱重工業(株)長崎造船所)  
竣工：1908(明治41)年4月22日



「天洋丸」タイムベル  
作製年代：1907(明治40)年ごろ  
作製：東洋汽船(株)  
寸法：高さ30.5cm×幅30.0cm

より失われてしまった今、このタイムベルは大変貴重なものといえるでしょう。



「氷川丸」のブリッジに今も残るタイムベル。「天洋丸」のベルもこのように吊るされ、30分ごとに鳴らされた

## 開

館当初からの展示品の一つに、「天洋丸」のタイムベルがあります。「天洋丸」は1908明治41年4月、浅野総一郎率いる東洋汽船(株)が外国船社に対抗するため社運をかけて建造した、日本で初めての1万トンを超える大型船でした。エンジンには当時主流だったレシプロ蒸気機関ではなく、より大出力を得られるタービン機関を搭載。船内装飾には当時流行のオールヌーボー様式を採用するなど、機能・デザインともに画期的な船として大きな話題を呼び、竣工後はサンフランシスコ航路で活躍しました。

その後、経営難に陥った東洋汽船は客船部門を切り離して第二東洋汽船(株)を設立し、第二東洋汽船は1926(天正15)年にNYKと合併。その際「天洋丸」もNYKの所有となり、1930(昭和5)年まで同航路で活躍したのち、1933(昭和8)年に売却されました。

タイムベルはブリッジに吊るされ、当直の船員が30分ごとに鳴らして時刻を知らせるとともに、火災などの非常時や濃霧の際に鳴らす警鐘の役割も担っていました。四半世紀にわたり活躍した「天洋丸」のタイムベルがなぜ保管されていたかは明らかではありませんが、戦前に活躍した多くの船が太平洋戦争により失われて

### 問い合わせ

### 日本郵船歴史博物館

- 所在地：神奈川県横浜市中区海岸通3-9
- 電話：045-211-1923
- 開館時間：午前10時～午後5時  
(最終入館：午後4時30分)
- 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)  
5月7日まで新型コロナウイルス感染症対応に伴い臨時休館

- 入館料：一般400円、シニア(65歳以上)・中高生250円、小学生以下無料  
(NYKグループ社員と同伴者1人まで、社員証の提示で入館無料)
- ウェブサイト：<https://museum.nyk.com>